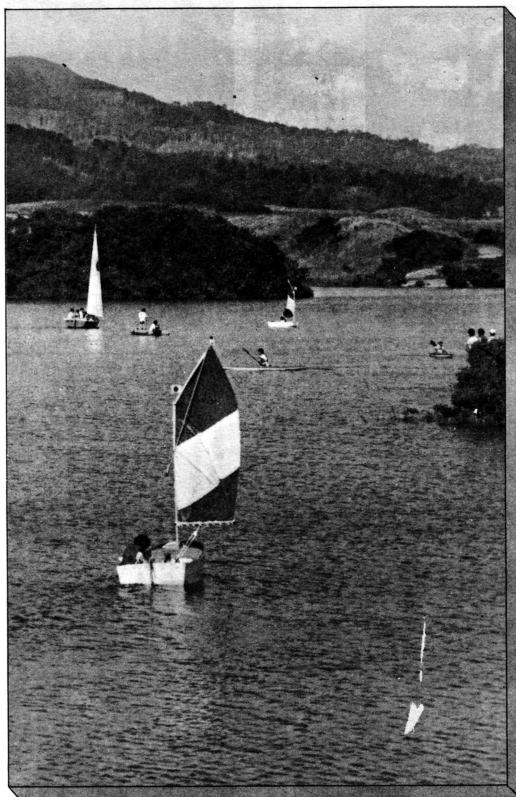


広報



しらら



自然条件に恵まれた大沼でヨット・カヌーを楽しむ青少年

夏にきたえる

大沼で開かれているB&G財団市浦海洋クラブ（白川隆治代表）のヨット・カヌー教室は、夏休みに入った小・中学生の人気のまよ。
広々とした牧場で、のんびり草をはむ牛。静かなたたずまいをみせていた大沼も、夏風を帆につばいに受けて走るヨットやきこちなくパドルを漕ぐ青少年らの声で、連日にぎわいをみせています。

昭和56年 7月号

8月30日オープンする

B&G財団 市浦海洋センター



B&G市浦海洋センターの建設工事は急ピッチで進められている

記念行事の検討急ぐ

ブルートニー・アンド・グリーンランド財団（B&G財団・笹川良一会長）が当町相内地区に建設されている市浦海洋センター（体育館）は、外装工事や床張り工事も終え完成まであと一息となっています。

村民の健康増進と青少年の健全育成を目的に建設されている市浦海洋センターは、七月いっぱいまで完成し、八月二、三日で、オープンにあわせ

十五日B&G財団に引き渡され、体育館は二十日オープン予定です。

村では、オープンにあわせ

て利用、運営計画の詰めを急ぐ一方、開館を祝う記念演奏会や記念大会等の案を出して交渉中で、近く具体化することになっていきます。

B&G市浦海洋センターは鉄筋コンクリート平屋建てで、総工事費は一億九千五百万円をかけた。

建設面積は、一千七百七十九・三㎡で、内部施設は、事務室、ミーティングルーム、シャワー室などが配備されており、七百三十㎡の体育館はバレーボールコート二面、バドミントンコートは四面、バスケットコート二面がとれるスペースになっている。

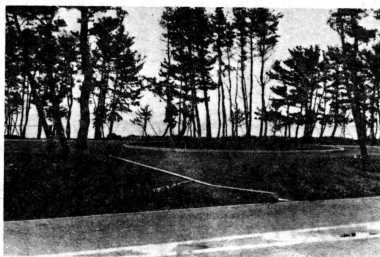
また、体育館には蒸気暖房も設備されており、冬期のスポーツ、レクリエーションも快適に行うことができる予定です。

三・二mmの鉄板を織り曲げて加工した屋根が直接天井になることは、これまでの体育館にみられない工事方法で、この体育館の特徴的なものだということです。

工事全体の進捗率は九十五％を超え、現在、雑工事を残すだけで、七月末の竣工を目指して工事が急ピッチで進められています。

完成まであと一息

休憩所に公衆便所を設置



十三湖畔に設置された休憩所・バス回転所

弘南バスの発着所に

村観光協会や地区住民から要望のあった休憩所兼バス回転所の建設工事が、十三湖畔の五月女滝地区に急ピッチで進められています。

五月女滝地区の国有林二千四百七十一㎡を借用し、緑地帯の整備と大型バスの回転するスペースをとった休憩所の面積は、千六百三十四㎡で工事費は三百七十九万円。村ではさらに一千万円をか

けて、回転所の舗装と公衆便所の建設工事を急いでおり、九月末完成にあわせて、弘南バスの発着、回転所として利用させることにしています。

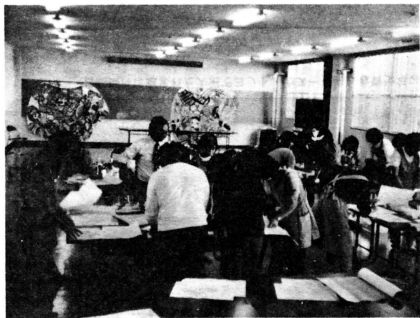
また、村観光協会でも、この場所に十三湖の観光案内板やゴミカゴを設置するなど、環境整備につとめており、商工会青年部の協力を得て定期的な清掃をして行うことにしています。

思うように書けないナア

市保連でねぶた絵講習会

市浦村保育連絡協議会(市保連・川口正雄会長)では、このほど基幹集落センターで「ねぶたの製作」と「ねぶた絵の描き方」講習会を開き、村内の各保育所の保母や、穀村民ら約三十人が受講し、下絵書きから色付けまでを熱心に学び、勇壮なねぶた絵を書きあげました。

この日は、弘前市の長谷川 講師に招き、まず、丁寧に下
渕一先生(藤代保育園長)を 書き、墨を入れていく。



下絵書きに取り組む保母さんたち

次はロウ引きをして色付け。指導に真剣に耳を傾けながら筆を運ぶ受講者に、講師の長谷川さんは「墨入れの線に勢いがないので、もう少し思い切つて筆々と書くよう。」「などと指導していました。

相内保育所の運動会には決まつて登場するねぶたは、交通安全パレードなどでも運行され、事故防止にも一役かっています。

川口市保連会長は、「講習会で学んだことを幼児教育にきつそくとり入れ、子供たちの情操と作るよろこびを与えたい。」と話していました。

市保連では、これからも絵画・造形美術の向上につとめ、保育技術の向上と幼児教育の充実につとめることにしています。

剣道教室に 申し込み殺到



メイン/コテッパ練習で心よい汗をかき豆剣士

指導者不足に泣く

市浦スポーツ少年団
(白川隆治代表)では、
青少年の健全育成と剣
道の普及をめざして剣
道教室を開いているが、
二十四人の少年少女は、
元来よく練習に励ま
す。

現在、相内地区の小学生から中学生の男女二十四人が参



練習日には全員顔をそろえ
11人の「女剣士」も堂々とわたりあう

加し、毎週火・木曜日の午後六時から相内小学校体育館で基本的な指導を受けているが、将来は試合に出ることが夢。それだけに、熱い入れようは子供よりも親が積極的。父兄会を組織して防具の購入、第二体育館建設の働きかけなど、親子ぐるみの教室となつています。

同少年団には、剣道教室に参加させてほしいという親子の申し込みが殺到していることから、B&G市浦海陸センターが完成すれば、村内全域を対象にした剣道教室も検討しているが、現在登録している指導者は四人だけ。

これ以上増やすと、指導がゆきとどかなくなることも考えられ、剣道に心得のある人の協力も呼びかけています。

第8回村民体育大会

盛会だった



相内第二チームの応援では在々木 田風の元気な顔がみられる



力強く宣誓をする磯海船正選手



子供からお年寄りまで一つになって応援する相内第一チーム

村民体育大会

考えてみませんか

村民体育大会は、これまで村内外に分けてのチーム編成を行ってまいりましたが、開催日の設定は、お天気に左右され、参加できないチームも多く、また、今年も例年同様、雨天で試合が中止となり、残念な結果となりました。

このことから村民体育大会を盛り上げるために、近々政務会期も、町長、地区民衛連の皆さんが、体育会では、毎年七月の三日曜日を「村民スポーツの日」に制定しようと呼びかけています。

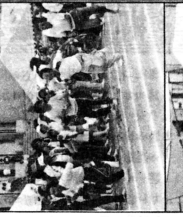
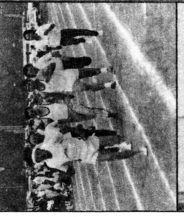
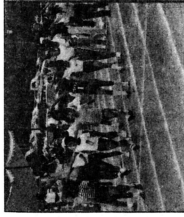
村民総ぐるみで参加できる村民体育大会にするために、みなさん考えてみるものです。

毎年七月三日曜日

「村民スポーツの日」に



運動会



千五百人の村民が参加

スポーツを週に体力の増進と風趣を高めよう。まーまに、大槌民体育大会は、十九日市浦中学校グラウンドで行われ、千五百人の村民が参加した。ことして八回目を迎えた村民体育大会は、主催の市浦町、村教育委員会、民衛連、関係機関、団体が企画した。バツバツ

村内外から八チームが参加し、子供から年寄りまで、選手を含めて約千五百人を超える市民が参加しました。プログラムも、子供からお年寄りまで取り扱う多種目を取り入れた。バラエティに富んだもので、午前時の打ち花、水ぎりに約八百人、選手団、大槌、各チームとも久ぶりの体育大会に行きの足取りも軽く、二入三舞、人物展、競争、親子競争、米巻、お祭り、親子三式、レクリエーション、ボール、競歩、アイス競歩、競争、各チーム、熱心な声援と、盛り上がりを見せていました。

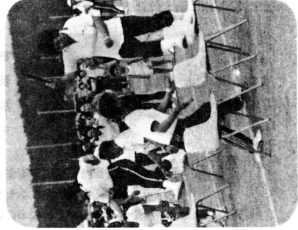
早業の休憩時間には、各チームの希望を出した応援隊も行われ、選手と応援隊が一つになつて楽しめました。

■開会式は次ぎの通りです。

優勝 磯海船正チーム 第二位 相内第一チーム 第三位 相内第二チーム 第四位 相内第三チーム 第五位 相内第四チーム 第六位 磯海船正チーム 第七位 相内第一チーム 第八位 相内第二チーム

■閉会式は次ぎの通りです。

優勝 磯海船正チーム 第二位 相内第一チーム 第三位 相内第二チーム 第四位 相内第三チーム 第五位 相内第四チーム 第六位 磯海船正チーム 第七位 相内第一チーム 第八位 相内第二チーム



市浦町民衛連旗をかけたの、イス飛び競争は最高にもりあがる



ガッツリ体力を奮起あう仲よし夫婦の二人三脚

レポート

B&G 若人の船に乗って

ブルーシー・アンド・グリ
ーランド財団(B&G財団
・笹川良一会長)では、全国
の青少年を対象に海外体験航
海を行っていますが、このほ
ど実施された第四回B&G若
人の船には、当社からも九
人の若者が参加しました。

律正しい団体航海の生活を体
験させ、集団の中の自分を見
つめる機会を与え、相互に友
好を築き、連帯と協調の精神
を涵養するとともに、航海に
関する理解と関心を深め、併
せて訪問国の歴史・産業及び
経済等を触れさせることによ
り、国際的視野を広め、かつ、

現地での交換を通じて国際親
善に寄与し、心身ともに健全
な社会を育成、海洋国の本
の発展に貢献すること目的
にしています。

渡航先は、フィリピン共和
国(マニラ)・香港ですが、
参加した人々から次の通り
感想が寄せられました。



斎藤 貴一

私が今回の航海に参加した
動機は、大勢の人々と知り合
いになれる、また外洋航海が
できるということ、高級酒が

友好を深める

安く飲めるという純・不純?
な思考が腹案をかすめたから
である。事実、日本の領海か
ら一歩外へ出ると、酒・タバ
コ等が免税に連日大要安、
つい船を過ぎる時はまだ一日
酔い。船に上るときはまたよ
かつたのですが、バスに乗っ
たのは冷房も手伝って、ケリラ
には荷物も手伝って、ケリラ
に帰るまで、途中バスを止め
て民家に飛び込む、というよ
うなことも体験できました。
(おばさんありがとうござい
ました。)また同地でのバスに
は日本・フィリピン両国の国

旗が掲げられ、パトカー、白
バイの先導がつき信号等はワ
リイバスで国賓の気分を味わ
いました。

船での約一週間の生活は、
日本各地から集った人々の中
に八十年代生れの人々の中
に入り四・五才若返り、また、
職場ではめつたに太陽にお
まかされるので、太陽がい
っぱいのデジキで日光浴をし
て少し日焼けをして帰って来
ました。

連帯と協調精神を養う



高田みづえの
「潮騒のメロ
ディ」が聞こ
える条件反射
のように目を覚ま
す。朝六時三十
分「全員起床。団員は六時五
十分までにオリーブデッキに
集合し、スピーカーの声を情
け容赦ない。この時から忙し
い一日が始まる。船上での研
修生活は休む暇がない。



小野 明美

自由時間は夜の嵐呼が始ま
るまでの四十五分間。シャワ
ーや洗濯を済ませたあとの数
ラウンジを利用して同輩の仲と
洋酒を飲みながら、高価な
洋酒など飲んだことのない私
はそれだけで感激して味の違
いなどわからなかった。

広い海にボツと浮んで航
海する船は閉鎖された空間だ。
ここに船員が集まって偶然
にもいっしょに生活する仲間
は運命共同体だ。こっぴょう丸

の弓場キャブテンはよく言っ
ていた。時間と規則には予想
通り厳しかったが、「若人の
船」で得た収穫はなんといっ
てもたくさん。友人と知り合
えたことに尽きる。さら、香
港やマニラ視察を通じて感じ
たのは、治安と教育とおいし
い水や食物を消費することを
あたりまえのように受けてい
る日本人は幸福者なのかもし
れないという人が多かった。
にどれくらい人が気付いて
いるだろうか。他国と比べて
はじめて気付くこと。
長い人生のうち、たった二
週間たらずに研修に費やした
ことでも一生涯去ることのな
い体験をするこができた。
これからすることがある。
参加を期待したい。

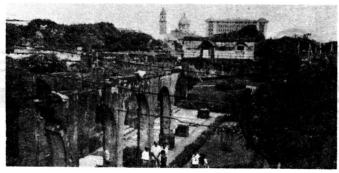


三和 広子

自分を見つめるチャンス

海外研修に参加し、団体航
海という集団の中で、自分を
見つめることが出来た。自分
を訪問国の産業、文化等を見
学して来て、日本での私た
らの生活、環境がどんなに幸福
なのか、あらためて「平和」
ということの大切さを、痛切

に感じました。
そして、私たちにとって、
いまなにをすべきか、わか
らないような気がしました。
また、全国各地から参加し
た名も知らなかった同志が
ひとつの「輪」になれたこと
が、どんな困難をも克服する
気概をもてるということです。
新しい友情が芽ばえたこと
に感謝いたします。
「若人の船」に参加して、
本当に、良かったと思います。
ほんの少しですけど、自分
が、躍べたような気がします。



マラカパ富殿にも
訪れました

盛り上がる夏の交通安全運動

夏休み中の子供を 交通事故から守ろう



役場各課長の街頭監視

地元婦人会ではマスコットのプレゼント



地元保育所母の会がアイスクリームのサービス
赤十字奉仕団相内分団では、ドリンクをサービス

「夏休み中の子供
の交通事故防止」「歩行者
及び自転車利用者の事故防止」
「飲酒・暴走及び無免許等無謀運転
による交通事故防止」などを重点にかか
けて、夏の交通安全運動が行われています
が、村内各関係機関・団体の協力で村民ぐ
るみの運動に盛り上がっています。
交通事故は、村民一人一人の協力で防
げるはずで、
この運動を効果的に継続させ
るためにも、あなたの協力
をお願いします。



「きれいな浜をとりもどそう」。と臨元小学校PT
A（石岡一衛会長）では、こども班を編成して、臨
元海岸から磯松海岸にかけて、クリーン作戦を実施し
ました。
臨元小学校では、子供たちが
を水の事故から守るため、毎
年夏休み期間中、学区民が交
替でプールの監視に出ついで
ますが、短かい北国の夏は子
供たちにとっては、海水浴と
海中の学習観察上からも楽し
みな季節となっています。
しかし、次から次へと打ち
寄せる粗大ゴミ、ビニール類
のゴミの量は、年々多くなる
ばかりです。
PTAでは、子供たちに快

適な海水浴を楽しんでら
うと、毎年夏休み前に海岸清
掃をしているもので、この日
も会員らが朝早くから海岸に
集まり、それぞれ分担区域の
ゴミ集めをして、焼却、袋詰め
をするなど、きれいな浜をと
りもどしました。
PTAでは、学校プールの
監視のほか、海辺パトロール
をして、子供たちを水の事故
から守ることにしています。

きれいな海岸で泳げるぞ

— 臨小PTAが清掃奉仕 —



早朝からゴミ集めをするPTA会員